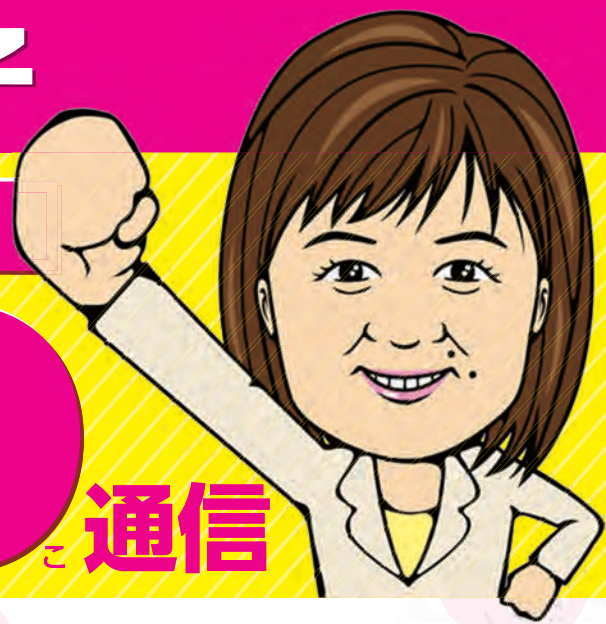




935

通信



埼玉県議会議員

江原くみ子

こんにちは。地元選出の江原くみ子です。皆さまお元気でお過ごしのことと思います。様々な議論を経て、予算議会が閉会しました。任期4年があつという間に終わろうとしています。県議会の場での経験を糧に、次年度も更にパワーアップしていきます！

今もなお、県政が身近に感じて頂けていない状況に歯がゆさを感じつつ「女性の意見を県政へ！」の初心と「いつも「所懸命」をモットーに、皆さまから頂いた地域のご要望やご意見をしっかりと形にしていきたい。毎日の出会いと経験が必ず生きてくると思っています。皆さまの笑顔に出会うことが私の元気の源です。引き続き、活動へのご理解の程、宜しくお願いいたします。



桜咲く瀧宮神社にて

江原くみ子プロフィール

1970年11月15日生 A型さそり座

3人兄妹の末っ子。深谷市生まれ。

好きな食べ物／ご飯、餃子、茶碗蒸し。

白百合幼稚園、桜ヶ丘幼稚園、桜ヶ丘小学校、南中学校、県立熊谷女子高校卒業。明治大学短期大学部法律科卒業。埼玉縣信用金庫で6年間勤務の後、大学入学のため退職、大阪外国語大学開発・環境専攻（ドイツ語専攻）へ。ケルン大学（環境先進国であるドイツ）へ留学、法政大学大学院政策科学専攻（環境コース）修了。奨学金は完済！

2004年、衆議院議員秘書

2007年、深谷市議会議員

2011年、県議選に惜敗

2015年、埼玉県議会議員当選

現在に至る

献血と同時に「骨髄バンク登録」をお願いします！



埼玉県で登録できる場所は、所沢・鴻巣・川越・越谷・熊谷・川口・大宮の7か所の献血ルームでできます。年齢は18歳以上、54歳以下の健康な方。男性45kg以上、女性40kg以上であれば概ね可能です。

注目を集めている骨髄バンクですが、江原くみ子は、いかにドナー登録を増やしていくのか、登録説明員の増員、骨髄移植した子供たちへのワクチン再接種の補助、若者層へのYouTubeを使った広報など、様々な観点から、すでに何度も県議会一般質問で取り上げています。

何とか骨髄バンクに協力して下さる若者を増やしたい！と、私自身も「骨髄バンク登録説明員」として様々な場所へ出向き、活動を続けています。ご登録をよろしくお願いします！



Illustration Dick Bruna copyright Mercis bv.1975

これからも江原くみ子は「一所懸命」頑張ります!

実現 色覚の多様性について

色覚検査の重要性については、おとしの一般質問で質し、それまで行われていなかった実施状況について調査をおこなうことになりました。一歩前進。そしてこの質問は、健康診断時に行っていた色覚検査が、平成15年から必須項目から削除され、色盲や色弱を気づかないまま、就職を迎えたお母さんからの相談がきっかけでした。そこからカラーユニバーサルデザイン(CUD)を知り、全国の仲間と取り組みを始めています。

今回は、県下小中学校、高校、特別支援学校での「色覚チョーク導入」を提案しました。値段も通常のチョークと変わらないのも大きな魅力ですが、認知度が低いのが悩み。だからこそ県議会で提案することが大切だと思いました。この「色覚チョーク」ですが、通常のチョークより色の識別がしやすくなるチョークです。私自身も視力が悪いので、黒板が見えにくいことがありましたが、色覚多様性の子どももそうでない子どもも、同じように教育が受けられるようにとの想いでの質問をし、4月から全県下で導入が始まる予定です。

どう見えていくかわかりにくいのが故に声を上げにくい、色覚の多様性問題については、これからも様々な角度で取り上げていきます。



●本会議場で。オレンジバンドもしています!

実現 地域包括ケアシステムにおける認知症対策 薬局・薬剤師さんの出番!

2025問題(団塊の世代が75歳以上になる年)は、待たなしの状況です。総務省の発表では既に70歳以上の人口は全人口の20%を超えたとのことです。そんな中で地域包括ケアシステムの構築は、喫緊の課題です。

認知症対策については何度も違う観点で取り上げましたが、今回は「認知症対応薬局」の導入を提案しました。検討の結果、4月から埼玉県でも取り組むことになりました。専門的知識を学んだ薬剤師さんが、窓口でのやり取りやお薬を通じて来客者の認知症の初期症状に気づき、必要に応じて受診を進めたり、地域包括支援センターに相談するという仕組みです。少しでも早い対応が必要な「認知症対策」のひとつが動き始めます。

実現 軽度・中等度難聴児の補聴器購入助成

県独自の補助制度で、私も市議会議員時代に、市長や県庁へ「軽度・中等度難聴児」のお母さん方と要望活動をしていて実現した障がい者手帳を持たない子どもたちを救う良い制度のひとつだと思っています。

しかし運用の中で、県の要綱が「18歳未満」となっているため、高校在学中にもかかわらず、誕生日を迎えたか、迎えないかで補助がもらえなくなるといった相談を受け、調査を行い、質問しました。

県の要綱を改定することにより、県下、バラバラであった各市町村の条例が「18歳以下」と統一され、18歳でも在学中は補助が受けられるようになりました。これも皆さまの声を形にできたひとつです。

江原くみ子は県議会議員として! 女性消防団員として! 地域の先生として! 地元のために働きます!!



●がんばる〜ム♪ 似顔絵をたくさん描いてもらいました!



●消防団も頑張ってます!

